

「平時の普及啓発」

～住民への周知活動における方法と課題～



【火山防災における諸課題】



「火山活動の周期」と「生活」との時間軸のギャップ



住民の多くは活火山であるという認識が低い
実感のわかない災害に対して普及啓発が難しい
噴火災害に対して具体的な取組みは行われていない
危機管理に対する意識を高く持ち続けることは難しい
構造物の整備などハード対策がどこまで必要なのか
経験者が減少している中、いかに若い世代に火山防災を伝えていくか

【人を中心とした視点から、自然界を中心とした視点へ】



火山島で暮らす人として自然からの恩恵に着目



地熱・
温泉

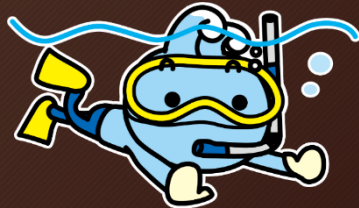
地層・
断層

海岸・
磯

ハイキング・
トレッキング

釣り・
ダイビング

ガラスアート







【伊豆大島ジオパークと連携した普及啓発】



企画運営部会（部会員）

推進委員会から付託された事業の企画・立案・運営を行う
 （※審議内容に応じて、合同部会または各部会を開催）

自然環境保全活用部会

部会長・副部会長

《部会員》

- ・大島町水道環境課
- ・大島町観光課
- ・大島町建設課
- ・環境省伊豆諸島管理官事務所
- ・東京都大島支庁土木課

ジオサイト整備／保全保護活動／資源モニタリング

教育文化部会

部会長・副部会長

《部会員》

- ・大島町教育文化課
- ・大島町教育委員会
- ・大島町立小中学校校長会
- ・大島町立副校長代表
- ・東京都教育庁大島出張所
- ・東京都立高校

科学教育・郷土学習／教育素材制作
 ／ジオサイトの調査研究

防災部会

部会長・副部会長

《部会員》

- ・大島町防災対策室
- ・気象庁伊豆大島火山防災連絡事務所
- ・東京都大島支庁総務課
- ・民間団体

防災啓発／防災教育／防災学習素材制作

観光部会

部会長・副部会長

《部会員》

- ・大島町観光課
- ・東京都大島支庁産業課
- ・東京都大島支庁港漁課
- ・大島観光協会
- ・東海汽船株
- ・大島旅客自動車株
- ・伊豆大島ジオガイドの会
- ・認定ジオガイド代表
- ・宿泊施設関係を含む他民間企業

観光振興／観光客への窓口機能／ジオツーリズム推進／ジオガイド制度・育成／広報素材制作

産業商工部会

部会長・副部会長

《部会員》

- ・大島町産業課
- ・大島町水道環境課
- ・東京都大島支庁産業課
- ・大島町商工会
- ・土木関係も含む他民間企業

産業振興・産業創生／特産品開発・商品化／PRイベント

地域活性部会

部会長・副部会長

《部会員》

- ・大島町住民課
- ・大島町福祉けんこう課
- ・大島社会福祉協議会
- ・伊豆大島ジオパーク研究会
- ・大島町婦人会
- ・大島町老人クラブ連合会
- ・民生委員・民生児童委員
- ・社会教育団体、民間団体

地域の普及啓発活動



【伊豆大島ジオパークと連携した普及啓発】

※令和3年度 ジオパーク講座スケジュール



※受講の際は 筆記用具 をお持ちください。

※18時30分開始の講座の 開場(受付開始) は 18時10分 です。ご協力の程お願いいたします。

No	開催日時	講座テーマ	講師	会場
1	10/17(日) 13:30~16:00	差木地の大地を作った割れ目噴火 -1421年噴火から600年-	産業技術総合研究所地質調査総合センター 主任研究員 川邊 禎久 氏	差木地
		地域の歴史と暮らし①:差木地	中田 保氏 藤田 光正氏	
★2	10/17(日) 18:30~20:30	伊豆大島火山と伊豆弧の火山	産業技術総合研究所地質調査総合センター 主任研究員 川邊 禎久 氏	開発総合センター 大集会室
★3	10/21(木) 18:30~20:30	ジオパークのいいところ -ジオパークを楽しむ100の方法	土佐清水ジオパーク推進協議会事務局 作田 愛佳 氏	開発総合センター 大集会室
★4	10/28(木) 18:30~20:30	国立公園としての伊豆大島	環境省伊豆諸島管理官事務所 国立公園管理官 轟田 奈津希 氏	開発総合センター 大集会室
5	11/1(月) 18:30~20:30	伊豆大島の植物	筑波大学大学院生命環境科学研究科 教授 上條 隆志 氏	開発総合センター 大集会室
★6	11/11(木) 18:30~20:30	ガイドのための火山防災知識 ガイドのための気象防災知識	気象庁伊豆大島火山防災連絡事務所 火山調査官 山際 芳雄 氏 大島町防災対策室 防災情報アドバイザー 加治屋 秋実 氏	開発総合センター 大集会室
★7	11/17(水) 18:30~20:30	伊豆大島の歴史と暮らし①	大島町教育文化課 岩崎 薫 氏	開発総合センター 大集会室
8	11/21(日) 13:30~16:00	推移予測に悩んだ1986年噴火 島の少年が災害記者に いま思うこと	山梨県富士山科学研究所 所長/ 東京大学名誉教授 藤井 敏嗣 氏 NHK報道局 ネットワーク報道部 副部長 金森 大輔 氏	開発総合センター 大集会室
★9	11/26(金) 18:30~20:30	伊豆大島の文化	郷土研究家 時得 孝良 氏	開発総合センター 大集会室
10	11/29(月) 18:30~20:30	伊豆大島の動物	元グローバルネイチャークラブ 天野 洋祐 氏 グローバルネイチャークラブ 西谷 香奈 氏 大島自然愛好会 成瀬 裕昭 氏	開発総合センター 大集会室
★11	12/3(金) 18:30~20:30	景色の中に見える地球 -ジオパーク的眼のつけどころ	島原半島ジオパーク協議会 事務局次長 大野 希一 氏	開発総合センター 大集会室

講座1は「1421年南部割れ目噴火600周年講演会」、講座8は「1986年噴火35周年講演会」と兼ねて実施します。

No	開催日時	講座テーマ	講師	会場
12	12/9(木) 18:30~20:30	伊豆大島の産業①:製塩業 伊豆大島の産業②:酪農業	海の精(株) 代表取締役社長 寺田 牧人 氏 (株)大島牛乳 前社長 白井 嘉則 氏 (株)大島牛乳 社長 柳瀬 聡子 氏	開発総合センター 大集会室
13	12/22(水) 18:30~20:30	地域の歴史と暮らし②:泉津 地域の歴史と暮らし③:岡田	福井 芳久 氏 川島 郁雄 氏	開発総合センター 大集会室
14	1/21(金) 18:30~20:30	地域の歴史と暮らし④:元町 地域の歴史と暮らし⑤:野増	藤井 虎雄 氏 増木 米孝 氏	開発総合センター 大集会室
15	1/23(日) 10:00~12:00	伊豆大島の橋①:大島高校橋園 ※要申込※ 定員先着30名。裏面の連絡 先まで1月17日までにお申込みください。	大島高校 教諭 金子 雄 氏	開発総合センター 大集会室+大島 高校・橋園
16	未定(1-3月) 18:30~20:30	伊豆大島の歴史と暮らし②: 暮らしと水・あんど 地域の歴史と暮らし⑥:波浮港	大島町教育文化課 岩崎 薫 氏 中山 登 氏	開発総合センター 大集会室
17	未定(1-3月) 18:30~20:30	伊豆大島の産業③:農業 伊豆大島の産業④:漁業	篠崎農園 篠崎 哲郎 氏 (未定)	開発総合センター 大集会室
18	未定(1-3月) 18:30~20:30	伊豆大島の産業⑤:橋油 伊豆大島の産業⑥:くさや	株式会社 橋 福井 元気 氏 くさや藤文 藤井 敏夫 氏	開発総合センター 大集会室
19	未定(1-3月) 18:30~20:30	伊豆大島の海 伊豆大島の海アクティビティ	大島海洋国際高校 教諭 倉澤 聡 氏 主幹教諭 網谷 宗彦 氏・教諭 小原 隆哉 氏 伊豆大島ダイビング連絡協議会 柏谷 浩之 氏	開発総合センター 大集会室
★20	未定(1-3月) 18:30~20:30	大島町の防災対策 伊豆大島の土砂災害対策 岡田港の津波災害対策	大島町防災対策室長 鶴崎 浩人 氏 大島支庁土木課長 島野 知幸 氏 大島支庁港湾課長 橋本 憲太郎 氏	開発総合センター 大集会室
21	未定(12-1月) 午前中	伊豆大島の橋②:橋花ガーデン 伊豆大島の橋③:大島公園橋園	橋花ガーデン 社長 山下 隆 氏 大島支庁土木課長 島野 知幸 氏 大島公園事務所所長 渡辺 亜砂子 氏	※現地 野外講座

- 「ジオパークマスター認定」のための受講必須講座は
★マークがついた 講座No. 2、3、4、6、7、9、11、20 です。
※未定の講座の開催日が決定した場合、講座No.が変わる可能性がありますので、ご注意ください。
- 未定の項目は、決定後、伊豆大島ジオパークWebサイト・SNS、大島町ホームページ、および広報おしま等で発表します。
- 申込者限定・期間限定公開のアーカイブ録画配信は11月から開始します。
受講申込フォームは後日発表します。



【伊豆大島ジオパークと連携した普及啓発】

1421年 南部割れ目噴火 600周年事業 第1弾

バスと徒歩で行く
たけ ひら ふんか しゅうねん ぎねん
おおしま なんぶ かざん あと

大島南部火山跡めぐり

思いがけないほど身近なところに、たくさんの噴火の跡が見られるのが、大島南部地域です。岳の平の誕生600周年を記念して、火山とともに生きてきた先人たちに思いを馳せながら歩いてみませんか？
きっと新たな発見と感動に出会えることでしょう！

たけのひらは 1421年のふんかて できた山なんだね！

2021. 9.11(土) 13:00~

対象 小学生以上のお子さんと保護者、その他 大島在住の方
定員 20名(申込先着順)
日時 差木地公民館駐車場 13時集合~16時解散(予定)
訪問場所 岳の平(軽登山)、余川水源池、筆島、小坂藤内らの記念碑など
案内人 中田 保氏(差木地在住)
申込方法 ●氏名(ふりがな) ●住所 ●電話番号 ●年齢をご記入のうえ 下記申込先まで メールまたは FAX にてお申込みください。
申込締切 9月3日(金)

※新型コロナウイルス感染症対策のうえ実施します
※雨天時は9月12日(日)に延期します

主催 伊豆大島ジオパーク推進委員会
お申込み 伊豆大島ジオパーク推進委員会事務局(大島町観光課)
Tel. 04992-2-1446 / Fax. 04992-2-1371 / Mail: c010601@town.takyo-ashima.lg.jp

講演会
南部で起こった噴火と
私たちの暮らし

島そのものがひとつの活火山である伊豆大島。山頂からだけではなく山腹や海岸線でも噴火が繰り返し起こり、大迫力の風景や人が暮らしやすい平坦地など、島が形作られてきました。今年、差木地のシンボル、岳の平を誕生させた南部の大噴火から600周年の節目の年です。この機会に南部地区の成り立ちや歴史に着目します！

とき 2021. 10.17(日) 13:30-16:00
ところ 差木地公民館

『差木地の大地を作った割れ目噴火—1421年噴火から600年—』
川邊 禎久氏(産業技術総合研究所地質調査総合センター 主任研究員)

『差木地の歴史と暮らし』
中田 保氏・藤田 光正氏(差木地在住)

『火山噴火への備えを考える』
鶴崎 浩人氏(大島町防災対策室長)

※新刊山口県刊行本「伊豆大島」の対談のうえ実施します。
※本講演会は「ジオパーク推進」の調査を兼ねています。

1421年 南部割れ目噴火 600周年事業 第2弾

主催 伊豆大島ジオパーク推進委員会
お問い合わせ 伊豆大島ジオパーク推進委員会事務局(大島町観光課)
Tel. 04992-2-1446 / Mail: c010601@town.takyo-ashima.lg.jp

【伊豆大島ジオパークと連携した普及啓発】

伊豆大島
1986年噴火
35周年
事業

近年36～38年間隔で
中規模噴火を4回繰り返してきた
伊豆大島。1986年の噴火からは
まもなく35年が経過します。
この節目の年に、起こり得る
次期噴火について共に考えます。

大島町
防災の日

とき 2021. **11.21**日
13:30-16:00

ところ 開発総合センター大集会室

『推移予測に悩んだ1986年噴火』

山梨県富士山科学研究所所長 / 東京大学名誉教授
藤井 敏嗣 氏

11月21日の割れ目噴火の際には地震研究所に一時戻って
いましたが、25日に来島、町に約1か月滞在していました。
幸い、懸念した大規模噴火への展開はありませんでしたが、
その間の調査で、大島ではいつでも大規模噴火がありうる
ことを確信しました。本年9月半ばのカナリア諸島のラパル
マ島での噴火も他人事とは思えません。いざという時に備
えて、町民の皆さんには大島で起こり得る噴火災害のこ
とをよく知ってほしいと思います。
(※オンライン講演)



名誉教授、山梨県富士山科学研究所所長、NPO環境防災総
合政策研究機構副理事長。現職は2014年から。2003
～2017年まで火山噴火予知連絡会会長。専門はマグ
マ学、火山学、火山防災

東京大学理学部地学科
卒業、東京大学大学院
理学系研究科修了、理
学博士、東京大学理学
部助手、東京大学地震
研究所助教授、教授、
東京大学地震研究所
所長、東京大学理事・副学
長、北陸先端科学技術
大学院大学監事を歴
任。現在、東京大学名
誉教授

『島の少年が災害記者に いま思うこと』

NHK報道局 ネットワーク報道部 副部長
金森 大輔 氏

私が今に至る原点となるのが1986年の噴火災害の経験で
す。繰り返された噴火によってできた大島の自然の中で、災
害と人間の生活の関係を学んだことが今でも大きな糧と
なっています。大島の1986年噴火や2013年土砂災害がま
さにそうであったように、災害は「常に人間の経験則を覆す」
ものです。次の噴火がいつ起きてもおかしくない中、自分の
経験が少しでも大好きな大島の役に立てればと思います。



1976年2月大島生まれ。
1986年噴火で島外避難
を経験。1991年島外の
高校に。1996年早稲田
大学。2001年に記者と
してNHK入局。初任地
は静岡放送局。2007年
報道局社会部に異動し
災害記者として気象庁・
内閣府・国土交通省など
担当。2018年災害報道
の中心を担う災害班デスク。2021年7月より現職でデジ
タルを活用した減災報道を模索中。代表番組はNHKス
ペシャル「MEGAQUAKE」「体感首都直下地震」など。

1976年2月大島生まれ。
1986年噴火で島外避難
を経験。1991年島外の
高校に。1996年早稲田
大学。2001年に記者と
してNHK入局。初任地
は静岡放送局。2007年
報道局社会部に異動し
災害記者として気象庁・
内閣府・国土交通省など
担当。2018年災害報道
の中心を担う災害班デスク。2021年7月より現職でデジ
タルを活用した減災報道を模索中。代表番組はNHKス
ペシャル「MEGAQUAKE」「体感首都直下地震」など。

講演会『必ず起こる、
来るべき噴火に備えて』



主催 伊豆大島ジオパーク推進委員会

お問い合わせ 伊豆大島ジオパーク推進委員会事務局 (大島町観光課)
Tel. 04992-2-1446 / Mail: c010601@town.tokyo-oshima.lg.jp

※新型コロナウイルス感染予防対策のうえ実施します。
※本講演会は「ジオパーク講座」を兼ねています。

あなたの

伊豆大島1986年噴火体験談を お聞かせください!



1986年の噴火体験談を次世代に伝えていきませんか?

皆様からいただいた体験談は

- 2021年11月21日開催の噴火35周年事業講演会
『必ず起こる、来るべき噴火に備えて』の会場に掲示します!
- 『伊豆大島1986年噴火35周年事業記録集』に掲載します!
- 選考のうえ、リニューアル後の

伊豆大島火山博物館の展示に活用させていただきます!

(※2024年オープンをめぐして、たぐいま伊豆大島火山博物館リニューアル事業を進めております)

リニューアル計画
進行中!!



あなたのエピソードが
新しい火山博物館に
展示されるかも!?

応募対象 島民の方はもちろん、火山学者の方、災害報道に携わった報道関係者の方、
災害対応に従事された行政職員やインフラ事業者の方、
島外避難を支援してくださった方、避難者を受け入れてくださった方、
来島されて噴火をご覧になった方、海を隔てて噴火をご覧になっていた方、
「1986年噴火を体験した方/関わった方」であれば、どなたでもご応募できます!

募集内容 噴火体験談 1エピソードにつき **200文字以内** でご応募ください。
各エピソードはどの時点でのお話か、以下から選んで①～⑤の数字を併記してください。
エピソードの数はひとつだけでも、いくつでも構いません。

- 1986年11月15日 噴火発生直後
- ①の後から割れ目噴火発生前まで
- 11月21日 割れ目噴火発生から島外避難まで
- 島外避難生活
- 島外避難から帰島したとき～その後

とっておきの
お話、教えて
ください!



応募方法 件名を《伊豆大島ジオパーク 噴火体験談応募》とし、
氏名・電話番号を必ずご記入のうえ、
公表の際に匿名を希望される場合は「匿名希望」と明記して
以下の応募先までメールまたはFAXにてお送りください。

応募締切 2021年11月15日(月)

応募先 伊豆大島ジオパーク推進委員会事務局 (大島町観光課)
Mail: c010601@town.tokyo-oshima.lg.jp
Fax. 04992-2-1371 / Tel. 04992-2-1446



伊豆大島
1986年噴火
35周年
事業

【関係機関との連携】

※四者懇談会 防災実務者会議



【関係機関との連携】

※波浮港でのジェットホイルによる輸送訓練 令和3年10月



【関係機関との連携】

※波浮港でのジェットホイルによる輸送訓練 令和3年10月



【関係機関との連携】

※陸上自衛隊による離着陸訓練 令和3年10月



【関係機関との連携】

※陸上自衛隊による離着陸訓練 令和3年10月



【東京都立大学との連携】

第一中学校 防災フィールドワークと発表会（令和3年6月）



【東京都立大学との連携】 つばき小学校 防災フィールドワーク(令和3年10月)



【防災対策室の事業】


防災訓練の実施



【防災対策室の事業】 防災の手引きの作成 ・ 伊豆大島火山防災マップの作成

伊豆大島 防災の手引

【火山編】




北西山腹割れ目噴火

1986年11月21日17時46分北西山腹で割れ目噴火が発生し、溶岩流が元町へ迫った

2018(平成30)年6月
東京都大島町

伊豆大島 防災の手引

【地震・津波編】




岡田港

1923年9月1日大正関東地震が発生し推定12メートルの巨大津波が岡田港を襲った

2019(平成31)年4月
東京都大島町

伊豆大島 防災の手引

【風水害編】




元町

1958年9月26日 狩野川台風の大雨により山崩れが発生し、土石流となって元町を襲った

2017(平成29)年3月
東京都大島町

伊豆大島 防災の手引

【私たちの】



3年前には、草や水がはえてきて、壁におおわれました。

2020(令和2)年4月
東京都大島町

伊豆大島火山防災マップ

発行：令和3年6月

このマップの利用目的と注意

伊豆大島火山は、たびたび噴火を繰り返している活断層的な火山です。現在は静穏な状態ですが、次の噴火に備えてマップの整備を進めたいと考えています。このマップは、噴火が起こった際の避難の目安となるような避難経路、避難場所の位置などを示すために作成したものです。過去に起こった火山噴火から、どのような避難が効果的かを検証し、今後の避難行動を参考にしてください。

また、火山はまたたいては噴火を予測することができず、天気予報のように噴火を予測することは困難です。特に伊豆大島火山は、山頂以外の住宅地に近い所や避難経路が狭く、避難行動が困難な状況が想定されます。また、急激な地盤変動や土壌のゆるみなどの前兆の兆候が現れてから避難行動の準備が迫る恐れもあります。

このため、このマップだけでは火山噴火の危険性や避難の方法などを完全に把握することはできません。また、火山は静穏な状態にいても、火山活動の予兆が現れることがあります。このように伊豆大島火山の噴火や避難の目安となるような避難経路、避難場所の位置などを示すために作成したものです。このマップは、噴火が起こった際の避難の目安となるような避難経路、避難場所の位置などを示すために作成したものです。

火山噴火の危険性

①火山活動の予兆が現れる可能性がある。噴火の前兆として、地震、地盤変動、温泉の異常な噴出、火山灰の降下などが挙げられる。

②火山活動の予兆が現れる可能性がある。噴火の前兆として、地震、地盤変動、温泉の異常な噴出、火山灰の降下などが挙げられる。

③火山活動の予兆が現れる可能性がある。噴火の前兆として、地震、地盤変動、温泉の異常な噴出、火山灰の降下などが挙げられる。

火山噴火の危険性

①火山活動の予兆が現れる可能性がある。噴火の前兆として、地震、地盤変動、温泉の異常な噴出、火山灰の降下などが挙げられる。

②火山活動の予兆が現れる可能性がある。噴火の前兆として、地震、地盤変動、温泉の異常な噴出、火山灰の降下などが挙げられる。

③火山活動の予兆が現れる可能性がある。噴火の前兆として、地震、地盤変動、温泉の異常な噴出、火山灰の降下などが挙げられる。

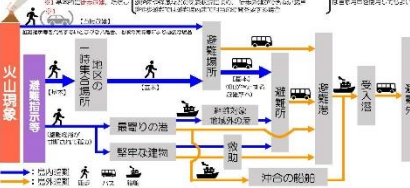
噴火したら起こることから身を守る

避難	避難	避難
<p>噴火の際、噴煙が立ち上るとともに、火山灰や溶岩が降り注いでくる。噴火の被害を防ぐには、避難行動が重要である。避難行動の目安となるような避難経路、避難場所の位置などを示すために作成したものです。</p>	<p>噴火の際、噴煙が立ち上るとともに、火山灰や溶岩が降り注いでくる。噴火の被害を防ぐには、避難行動が重要である。避難行動の目安となるような避難経路、避難場所の位置などを示すために作成したものです。</p>	<p>噴火の際、噴煙が立ち上るとともに、火山灰や溶岩が降り注いでくる。噴火の被害を防ぐには、避難行動が重要である。避難行動の目安となるような避難経路、避難場所の位置などを示すために作成したものです。</p>

情報の流れと避難行動

避難	避難	避難
<p>火山活動の予兆が現れる可能性がある。噴火の前兆として、地震、地盤変動、温泉の異常な噴出、火山灰の降下などが挙げられる。</p>	<p>火山活動の予兆が現れる可能性がある。噴火の前兆として、地震、地盤変動、温泉の異常な噴出、火山灰の降下などが挙げられる。</p>	<p>火山活動の予兆が現れる可能性がある。噴火の前兆として、地震、地盤変動、温泉の異常な噴出、火山灰の降下などが挙げられる。</p>

避難の流れを確認しよう



火山噴火発生時、避難行動の目安となるような避難経路、避難場所の位置などを示すために作成したものです。

地域の避難先を確認しておこう

避難先	避難先	避難先
<p>避難場所(避難所)</p>	<p>避難場所(避難所)</p>	<p>避難場所(避難所)</p>

大島で近年に起こった噴火

噴火の経緯	噴火の経緯
<p>1986年11月21日、北西山腹で割れ目噴火が発生し、溶岩流が元町へ迫った。</p>	<p>1986年11月21日、北西山腹で割れ目噴火が発生し、溶岩流が元町へ迫った。</p>

噴火警戒レベルと防災対応

警戒レベル	火山活動の状況	防災対応
5	噴火の予兆が現れる可能性がある。	避難行動の目安となるような避難経路、避難場所の位置などを示すために作成したものです。
4	噴火の予兆が現れる可能性がある。	避難行動の目安となるような避難経路、避難場所の位置などを示すために作成したものです。
3	噴火の予兆が現れる可能性がある。	避難行動の目安となるような避難経路、避難場所の位置などを示すために作成したものです。
2	噴火の予兆が現れる可能性がある。	避難行動の目安となるような避難経路、避難場所の位置などを示すために作成したものです。
1	噴火の予兆が現れる可能性がある。	避難行動の目安となるような避難経路、避難場所の位置などを示すために作成したものです。

避難に備えて

- 家の中や周りの備え
 - 避難用品の確認
 - 避難用品の確認
 - 避難用品の確認
- 避難用品
 - 避難用品の確認
 - 避難用品の確認
 - 避難用品の確認
- 非常用持ち出し品
 - 避難用品の確認
 - 避難用品の確認
 - 避難用品の確認

三原山の様子を見てみよう



北西外観、中央外観、ライブカメラ等で、現在の三原山の様子がご覧いただけます。

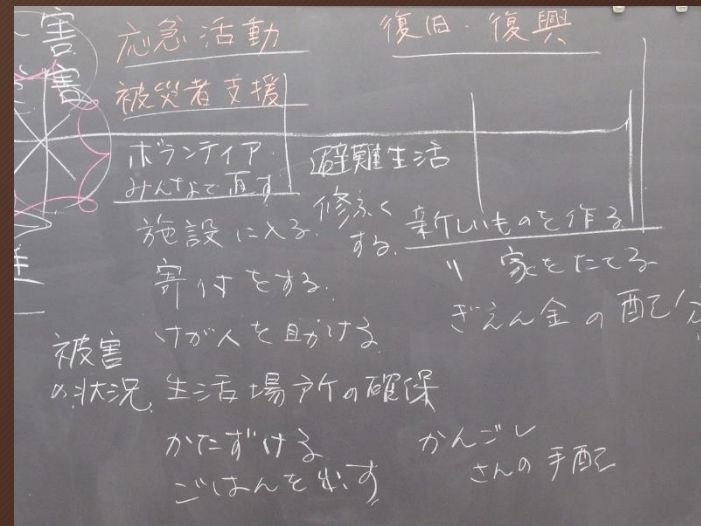
異常現象を通報しよう

噴火、地震、火災、地盤変動、異常な噴出、噴煙、噴煙、噴煙、火山灰など。異常現象が発生した場合は、直ちに通報してください。

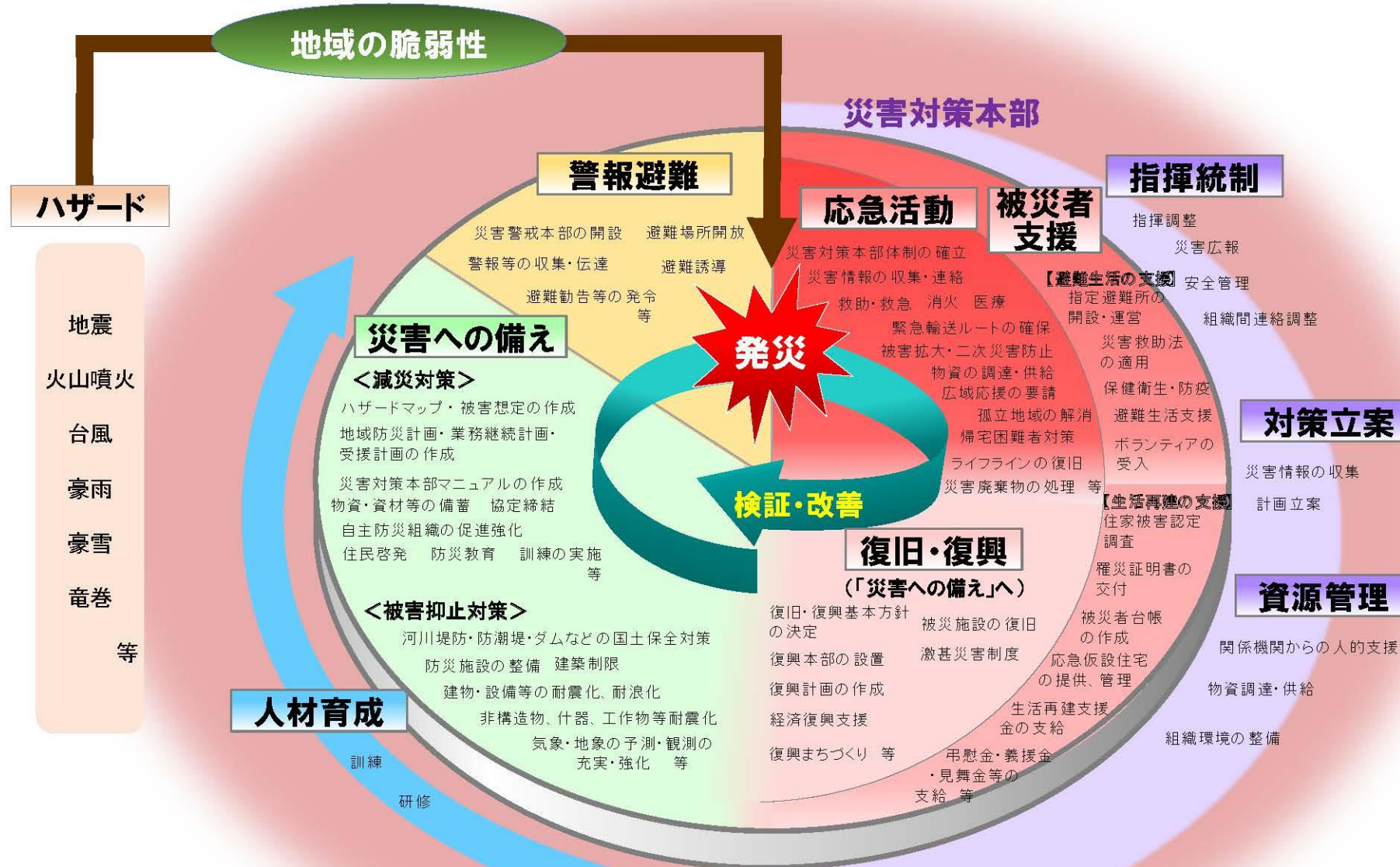
大島町役場 2-0005
大島町消防団 2-0118
大島町消防団 2-0118

【防災対策室の事業】

自主防災組織地域防災連絡会の開催 小学校防災授業への参画



災害対策の流れ



災害対応の原則		
・準備したものでなければ機能しない、事前の備えが不可欠	・避難情報の発令は、「空振り」を恐れず、判断基準に基づき発令すべき	・最悪の事態を想定して、疑わしきときは行動せよ

**災害対策関連法
各種防災計画**

内閣府防災
「防災スペシャリスト養成」
企画検討会資料より

警報避難

災害警戒本部の開設 避難場所開放
警報等の収集・伝達 避難誘導
避難勧告等の発令等

災害への備え

<減災対策>

ハザードマップ・被害想定を作成
地域防災計画・業務継続計画・
受援計画の作成

災害対策本部マニュアルの作成
物資・資材等の備蓄 協定締結

自主防災組織の促進強化

住民啓発 防災教育 訓練の実施等

<被害抑止対策>

河川堤防・防潮堤・ダムなどの国土保全対策

防災施設の整備 建築制限

建物・設備等の耐震化、耐浪化

非構造物、什器、工作物等耐震化

気象・地象の予測・観測の
充実・強化 等

人材育成

訓練

研修

発

検

まとめ ～課題解決に向けて～

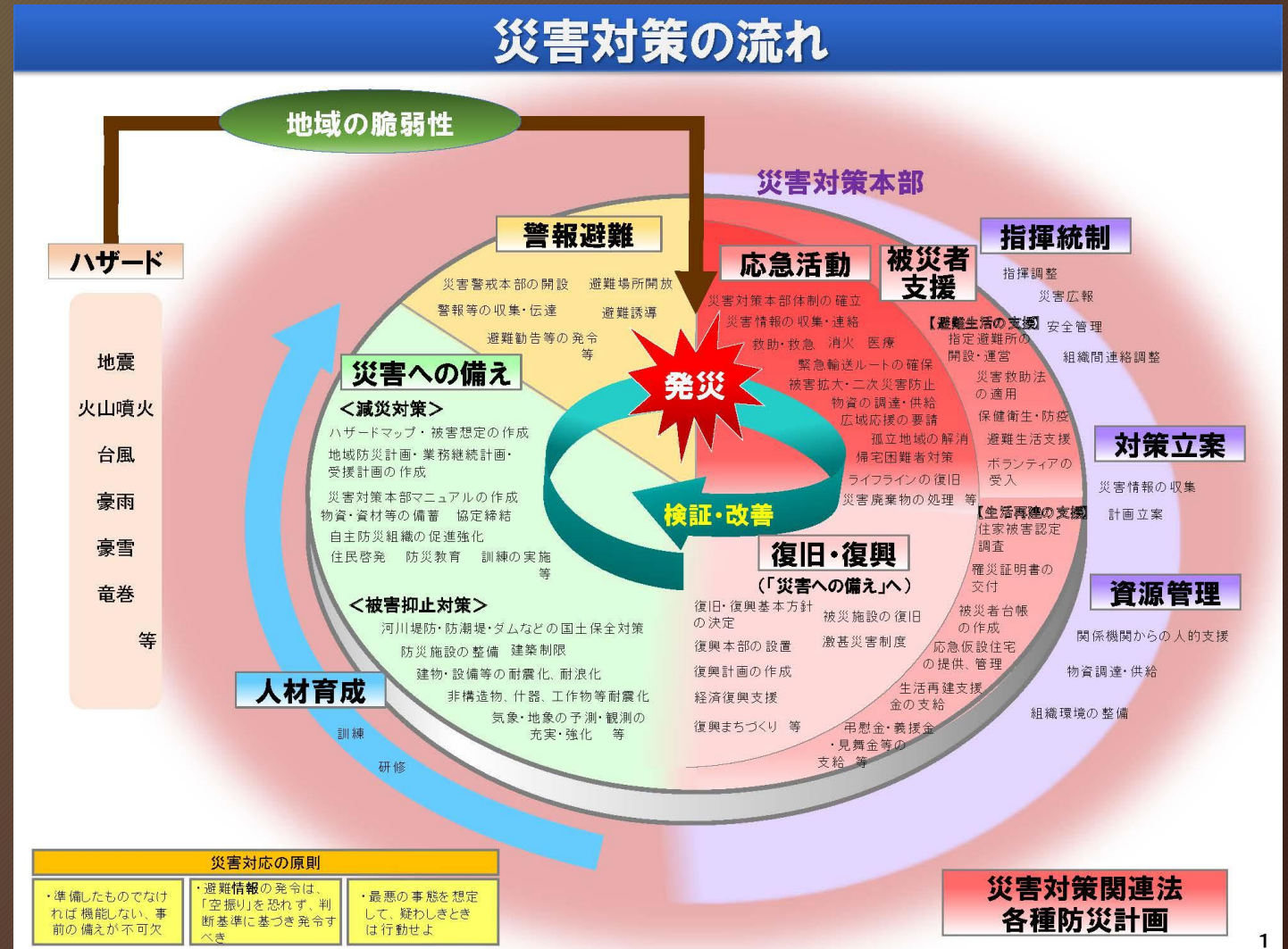
- 自然からの恩恵に着目した視点へ！
- とにかくさまざまな人を頼る！
- 頼るための最低限の防災知識の習得！
- 知識習得のための研修への参加！
- 計画的な事業実施！

まとめ ~課題解決に向けて~

実は狭い防災の世界

キーパーソンは近くにいる

いざ実践、被災地へ



ご清聴ありがとうございました。

